

文化振興による まちづくり

兵庫県
高砂市
(たかさごし)



人口：94,638人（H25.3末）

特徴：兵庫県南部、播磨平野の東部に位置し、謡曲「高砂」で知られる。

謡曲「高砂」ゆかりの地として知られる高砂市は、古くは万葉集に詠まれ、自然の恵みと地の利を生かした竜山石の採掘、塩づくり、木綿栽培、交易等で栄え、今では播磨臨海工業地帯の一翼を担っている。

将来都市像として「生活文化都市 高砂」を掲げ、市が更に発展し、市民が豊かさや幸福を実感でき、住んでいることに誇りが持てるまちとするために、謡曲「高砂」の振興や「高砂学」の講座の開催など、くらしに密着した文化振興に取り組んでいる。



こども狂言ワークショップ

生活文化都市 高砂

平成13年12月、文化芸術振興基本法が制定され、地方公共団体の責務として、文化芸術の振興に関する施策を総合的に策定することが規定された。

謡曲「高砂」ゆかりの地で知られる高砂市では、文化を活かしたまちづくりに、市全体で取り組んでいくため、総合計画で将来都市像として「生活文化都市 高砂」を掲げ、平成23年3月、「高砂市文化振興条例」を制定した（同年4月施行）。

地域づくりのための文化行政

条例の制定に当たり、文化に関する事務を、教育委員会から市長部局へ移管した。これは、文化振興を、地域振興などの関連行政と一体的に進めるためである。

また、文化振興に関する有識者会議を設置し、基本方針や実施計画を定め、高砂文化講座「高砂学」の開催、まちあるきの実施、こども狂言ワークショップの開催などの取組を進めている。

市民が運営する「高砂学」

「高砂学」は、高砂の歴史文化を学ぶ講座編を年7回、写生や吟行俳句などの活動編を年4回開催し、平成23年度の開始以来3年間で、のべ3,700人が受講する人気講座となっている。参加者からは「楽しかった」「これからも続けて欲しい」という声が寄せられている。

当初、講師は市が依頼した専門家のみであったが、平成25年度から、歴史文化団体で活動する市民も務めるようになっており、市民主体で運営する講座となりつつある。

地方分権改革との関連

平成20年4月、教育における地方分権の一環として、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が改正された。

これにより、従来は教育委員会が担当していた文化行政について、条例で定めることで、地方公共団体の長が担当できるようになり、地域振興や高齢者の健康づくりなどと一体的に進めることができるようになった。



「高砂学」講座編



「高砂学」活動編

関係者からのメッセージ



高砂の豊かな歴史と文化を伝承し、市民の「もっと知りたい！高砂」という要望に応えるため、それぞれの歴史文化団体の活動から、「高砂学」講座を通じて高砂への熱い想いを発信していきたい。

今後は、単発的な講義で終わることなく、市民講師間の連携を図り切磋琢磨して、行政と一体となった「文化を大切にし、ふるさとを愛する人が集うまち高砂」のまちづくりと発展のために努力したい。

（「高砂学」市民講師の会代表
宮先 一勝氏）